

令和2年4月4日

南の風 338

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

新年度が始まりました。今年度も『南の風』におつき合ください。よろしくお願いいたします。

日一日と拡大が懸念されます、新型コロナウイルス感染症の脅威と閉塞感の中、あるミニバスの指導者の方からメールをいただきました。内容の抜粋です。

「指導していてどんどん教えることが増えて、難しくしてしまっている気がするんです。1月から取り組んでいたのがドリブルドライブモーションオフENSなのですが、まず形を教えるところでは可能です。何回かリピートしたあと、5対5やゲーム形式でやるとうまくいきません。ハーフコートで始める5対5はまだいいのですが、ゲーム形式になった場合はエントリーがうまくいかなかったり、ディフェンスに対応できなかったりします。そうするとエントリーの仕方も指導したり、ディフェンスとの1対1の関わりも指示したりしてしまって、教えている私自身に余裕がなくなってしまう、選手にとって難しくなり混乱させているように思うのです。何かアドバイスがあればお願いします。」

といった内容でした。

一つのチームプレーを指導する時の難しさが伝わってきます。

メールをいただいた時に頭をよぎったことばがあります。作家 井上ひさしのことばです。

むずかしいことをやさしく	やさしいことをふかく
ふかいことをおもしろく	おもしろいことをまじめに
まじめなことをゆかいに	そしてゆかいなことはあくまでゆかいに

このことばは、学びの場の極意として世に伝えられています。

以下、私なりの解釈です。バスケットボールの指導の在り方として進めます。

「むずかしいことをやさしく」教えるためには、そのスキルやプレーの本質（コアな部分）を熟知しておくことが大前提となります。次に教える選手の実態把握が必要です。初心者なのか経験者なのかで教え方は大きく変わってきます。

「やさしいことをふかく」とは、スキルやプレーの理解のふかさだけでなく、表現方法（ことば、うつし、師範演技）も関わってきます。またドリブルドライブモーションであれば、最初にドリブルドライブの場面のみならず、直接関わらない3人の動き方を取り上げた、プレーの全体像（5人の動き方）を示すことで選手に見通しを持たせます。

「ふかいことをおもしろく」は、選手に「やってみたい、おもしろそう。このプレーができるようになりたい」と思わせることです。そして指導者は、模範演技やうつしの言葉にユーモアを交え、「このスキルやプレーができるようになれば、ノーマークになるチャンスが生まれ得点が増えるよ」と伝えることによって、選手の「できるようになりたい！」という学び気持ちをさらに増幅させるのです。

「おもしろいことをまじめに」というのは、指導者は『おもしろさ』の中にもスキルの精度や動きの質を高めるために緊張感をもって教え、選手は楽しさの中にも特にポイントとなる部分を真剣に学ぶということです。次号に続きます。